

関西で宅配バイク講習

SDA 会員店舗スタッフら熱心に受講

全日本デリバリー業安全運転協議会(SDA)はこのほど、同協議会が主事業とする宅配バイクの安全運転実技講習会を関西圏(兵庫と京都)で開催。二輪車専門教室所を会場に、日々の宅配業務に役立つ安全運転技術指導や事故防止啓発、運転前の点検整備など、幅広いカリキュラムの下、参加者はしっかりと受講した。

【兵庫】講習は4月19日、尼崎市にある阪神ライディングスクールで行われ、京阪神を中心に

行者保護として、見通しが悪く、信号機もない横断歩道からの飛び出しなど、歩行者への注意喚起を怠らないよう強調された。

続く「実技1」は乗車前準備と車両点検を受講。参加者は日々運行前のチェックの大切を実感した。さらに「実技2」では、安定した制動(宅配用バイクの制動)を把握するためとして▽信号とブレーキングによる反応時間▽走行速度とブレーキングに關係する空走時間や停止距離—の比較機会が繰り返され、受講者は実体感により学習した。

実技後は「安全確認識」をキーワードに掲げ



兵庫会場④実技講習⑥座学



京都会場④実技講習⑥運行前点検

た座学に。走行中の『安全確認』に加え、ブレーキランプや方向指示器などにより自身の動向や意思表示を伝え周知し、『認識』してもらうことが非常に重要なことであり、交通安全に強く繋がるものと解説された。

【京都】5月28日、京都市伏見区の伏見デルタで開かれ、京都や大阪にあるSDA会員企業の食品宅配店舗スタッフら15人が受講した。講習前には京都会場でも講話が行われ、京都府警交通部交通企画課の友廣健介警部補により最近の交通情勢などが説明された。この後、走行コースでの実技講習へと移り、午後から約2時間のカリキュラム

となったが、より実践的な走行セクションと指導内容の下、参加者はしっかりと安全運転技術を受講した。

講習では、実車走行に先駆けて重要な車両点検も実施。点検の重要性とともに、定期点検整備の怠りて発生する故障例などを挙げて、実車による運行前点検方法が分かりやすく説明された。

続く実車走行では、

「二輪運転の難しさの体感」とした課題に、スラロームや平均台、狭路など多彩なセクションを用いて講習。二輪車の傾きによる曲がり方やアクセルワークによる車体の挙動などをつかむ練習を重

ね、進路変更や右左折なども含めて、コース上でスムーズなバイクコントロールを身に着けられるよう腕を磨き、参加者は上達を目指した。

実技後は、座学が行われ、ペーパー式IDP運転適性検査のほか、ドライブレコーダー動画による様々なシチュエーションやアクシデントでの危険予測など、危険要因の捉え方などを学んだ。